

C. 2014年度事業報告

1. 特に重点的に取り組んだ事業

協会では、事業計画にもとづき、各種事業を推進する中で、とくに、2014年度は以下の3つを重点的に取り組んだ。

（1）あらゆる人の“参加”を支える組織としての協会を打ち出す1年に。

当協会は、「参加」による「問題解決」が図られるよう、ボランティアスタイル事業の発展・改革を進めるとともに、参加を促す人材の育成やNPOの「参加力」を高めるための基盤強化を推進することができた。また運営事務局を引き受けた「全国ボランティアコーディネーター研究集会2015」の大阪開催では、327人の参加者を得て、集会の準備過程でボランティアコーディネーションにおける関西の関係者のつながりを広げることができた。一方で、これらの推進を優先したため、活動希望者の相談件数の減少や、予定していたICT時代のボランティアコーディネーション改革に着手できなかった点は、一部課題を残した。

（2）発信力と市民学習機能の強化～市民社会の創造の中で不可欠なものとして見せる



カラーページを増加した、新装の「ウオロ」

「市民活動総合情報誌『ウオロ』」は、これまで年間10回発行をしてきたが、年6回の発行とページ数を減少させる一方、カラーページを拡大し、内容と編集体制の強化をはかった。

また、態勢の厳しさから、ここ数年、積極的な取り組みができなかった協会の参加システムの整理と見直しや「市民学習」事業の開発に着手。50周年に向け、新しい人材育成のありようを模索している。

（3）50周年に向けた財政強化と新機軸の創造へ…2015年の下準備の年に

2014年度は、財政面で厳しいものだったが、自主事業における経費回収や委託事業の受注の努力が実り、収益の強化に取り組むことができた。

また、次3～5年の中期的見通しを立て直す必要から、財務基金運営委員会を再編。賛助企業への依頼などを支援する法人コミュニケーションチームと分化し、新たな改善案の検討を始めた。とくに協会は、2015年に50周年を迎えるため、その準備にも着手。将来ビジョンの検討ワーキングを開催し、次なる協会の創造に向けて、検討を進めている。



「法人コミュニケーションチーム」メンバー

2. 各事業ごとのトピックス

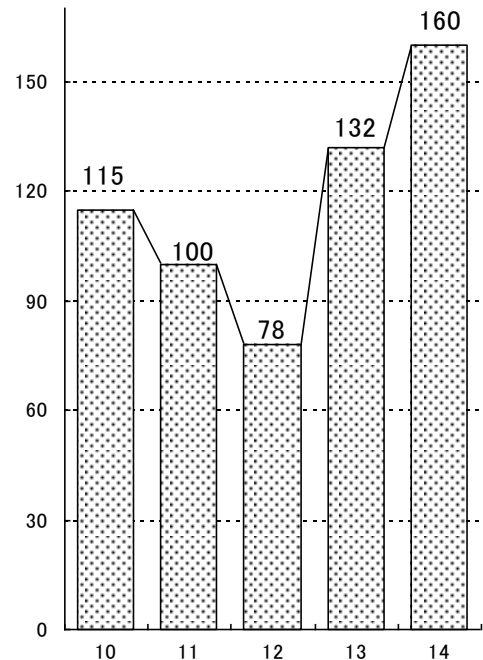
各事業の詳細報告の前に、主に事業面を中心に2014年度の活動の動向について概観する。

1. ボランティアコーディネーション事業

協会は、市民の社会参加の機会を拡大しながら、社会や地域の問題解決を促進できるように取り組んでいる。また、ボランティアコーディネーションの専門性を高める活動も進めている。

- 「活動したい」相談は392件。昨年度より災害への関心の薄れが影響し、件数の減少が見られた。
- 「応援を求める」相談は160件。複雑な相談が増えてきており、調整時間は13,292時間に及んだ。
- 他機関の専門職やコーディネーターとの連携を強化。大阪市内の他関係機関と連携できる環境を整えるため、専門機関の相談員と「顔が見える」関係づくりや、全国ボランティアコーディネーター研究会の事務局を引き受け、その輪を広げた。

応援求む相談件数の推移



2. 市民力向上事業

2014年度も、市民学習、市民活動団体の運営・経営を担う人材の養成、さらにはその活動を応援する専門職の資質向上などの研修提供に精力的に取り組んだ。

- 28コース、116講座を開催。参加者数2,671人を得た。また、スキルアップ系の講座をボランティアとともに開発、実施することができた。
- 講座に講師を派遣する「講師派遣事業」は、講師派遣のべ141件、非常勤講師での出講184件、合計325件となった。



ボランティアリーダーらが学びたいテーマを設定。アサーティブ研修のーコマ

3. NPO運営・基盤整備事業、市民活動団体の活動拠点提供事業

NPO運営支援・基盤整備事業では、NPOの組織運営を支援する活動を展開した。

- NPOの経営・運営力アップのため、運営や事業開発に関する253件の相談に対応した。CANVAS谷町の展開や有料継続相談などの動きもあったが、相談対応できる人員減も影響し、相談件数は微減。また、その相談活動の一環として、NPO関係者が支援者との連携を進められるよう“つなぎ役”寄贈品仲介、各助成制度を通じてNPOへの助成金提供を支援している。
- 2013年度にオープンした市民活動スクエア「CANVAS谷町」は、事務所機能や会議室提供、情報交流スペースの拡充などの環境づくりと収益性の強化に努めた。

4. 災害・復興支援・防災の取り組み

協会では、2014年度に災害支援委員会を設置。関西での復興活動や支援活動に取り組んだ。

- 夏に起こった広島土砂災害の支援のため、2名のコーディネーターを派遣し、ボランティアの運営支援に参加する形を取った。
- 東北の被災地支援も継続。4回目になる「3.11 from KANSAI 2014」を開催。企業、社協と連携した実行委員会形式でシンポジウムを開催し、160人の参加者を得た。



広島土砂災害支援として、ボランティアも運営者として参加

5. 「企業市民活動推進センター」事業

「企業市民活動推進センター」部門は、企業のCSRや社会貢献活動向上のための取り組みやコーディネーション事業、それに関わるNPO/NGOの活動支援も行った。

- 企業市民活動全般に関する相談144件に応え、社会貢献活動の企画づくりなどの支援を行った。
- CSR担当者を対象とした研修等も開催。「フィランソロピー・CSR・リンクアップフォーラム」では、参加企業の発意による合宿形式のフォーラムを実施した。企業主催の社員向け市民活動講座や体験プログラムの企画と講師派遣にも取り組んだ。
- グランフロントで展開している「ウメキタ朝ガク」など、企業人の企画と連携で、活発な動きを見せている。

6. 情報提供・出版・市民シンクタンク事業

2014年度も『ウォロ』の発行「ホームページを通じた情報発信」「書籍の発行」「市民シンクタンク事業」を通じて、情報の共有と分析や提言の発信などを行った。

- 『ウォロ』の発行は、カラーへの刷新、隔月発行体制となり、新規購読者が154人に。市民活動に関する多様なテーマや市民活動に関する独自のオピニオンをより深めるため、内容を深め幅広い視点から発信できる媒体への改革を行った。販売努力も実って、購読者数が増加している。
- 出版事業は、定期的な新刊発行体制を終結することになったが、必要とされる本の発行と販売強化により619万円の発行経費を回収することができ、前年度より好転した。
- ボランティアリズム研究所は、「市民セクターの次の10年を考える研究会」の開催し、様々な方々を招き、市民活動の今後を考える機会を作ってきた。
- この他、行政や企業の各種委員を引き受け、政策提言や助言活動に取り組んでいるが、選択と集中ができる体制づくりを考慮して、派遣を少し控えた面もあった。